



滝上町外国語指導助手

Jordy's コーナー

私のママと妹が先月テキサスから滝上に来ました。滝上には2週間の滞在でしたが、その間中学校、子供英会話教室、そして大人のECCにも参加し交流を深めることができました。

『静かでとても美しい町ね』がママの第一印象でした。

私が休みの時、紋別のオホーツクとっかりセンター、流水科学館に連れていきました。テキサスは冬でも雪が降らず、冬の

寒さは想像もつかないようです。カニのツメのところで撮った写真はいい思い出です。

そして富良野のラベンダー畑や美瑛の美しさ、旭川で食べたスープカレー、遠軽の焼き肉など、お腹も心も北海道を満喫することができたようです。

私が仕事の時はECCのメンバーとパークゴルフを楽しんだり、せっかく日本に来たのだからとプログラムを組んでくれた茶道や書道の初体験。ママは筆を持つのは難しかったけどアメリカに帰っても書道は続けたいと言っていました。皆さんに親切にいただき、本当にありがとうございます。

滝上を後にして、3人で東京を観光旅行しました。秋葉原ではたくさんの人と物が絶えず動いているのに驚かされ、浅草そしてスカイツリーと日本の古さと新しさを同時に味わうこともできました。

中でもママのお気に入りには歌舞伎、1日じゃ物足りなく次の日も見に行ったほどの熱の入れようでした。東京最後の日にはディズニーシーを訪れ、蒸し暑さと人の多さにただただビックリしました。とにかく家族で夏休みを満喫でき、とても幸せでした。

ママ達が帰り、今は少し淋しい。きっとテキサスで忙しかったけど楽しかった日本での夏休みを思い出し、疲れをいやしていることでしょう。



おぐり アイ 小栗EYE

郷土館管理人小栗さんに收藏品の紹介や、それらにまつわるエピソードなどを紹介していただきます！

「提灯」

提灯(ちようちん)はローソクを用いる明かりです。細い割竹をらせん状に巻いた骨に紙を貼り、上下に口と底をつけて折りたためるようになっていきます。江戸時代に夜の外出の時の明かりとして流行し、いろいろな提灯が作られました。箱提灯はたたむと箱になるように作られ、主に儀式用。小田原提灯は箱提灯を小型軽量化してもっぱら旅行用。また、ぶら提灯球形または棗(なつめ)形で棒の先にぶら下げたものです。ほおづき提灯はこれに赤や紅白などの色彩をほどこしたもので、今もお祭りや提灯行列に用いられています。弓張提灯は竹弓の弾力を利用して口と底を張って安定させたもので、火消人足や御用聞きまで広く使われました。高張提

灯は棗形で家紋や屋号を書き入れ、門前や店頭、行列の先頭に掲げて目印にしました。御神灯(ごしんとう)と書いてお祭りに掲げます。吊提灯はぶら提灯より大形で神社・寺院への献灯などに用いられます。また、お祭りのとき、軒先に吊るす球形の祭礼軒提灯も吊提灯です。

提灯は石油を用いた安全ランプが普及すると使われることが少なくなりました。今では外灯が整備されて夜の戸外も明るくなり、懐中電灯の使用で提灯もランプも使われることはなくなりました。わずかに祭礼の御神灯や吊提灯が使われているだけです。

郷土館には御神灯の大提灯が展示されています。また、飾りのほおづき提灯もたくさんあります。そして「太陽提灯」と印された小田原提灯も展示されています。

今ではお祭りのときにしか目にするこのなくなった提灯を見て、暗かった昔の夜に思いをはせてみてください。



「高張提灯」

○本来はもっと高い所に吊るす。上下とも固定されている。



「小田原提灯」

○閉じてたたむと携帯電話位のサイズになる。